

令和6年度亀岡市いきいき長寿プラン推進協議会 会議録（概要版）
（第2回会議）

1. 日時

令和7年2月6日（木） 10:30～11:30

2. 場所

亀岡市役所3階 302・303会議室

3. 会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
 - （1）第10期計画に向けての評価方法の見直しについて
 - （2）高齢者等実態把握調査について
 - （3）その他
- 4 閉会

4. 配布資料

次第
亀岡市いきいき長寿プラン推進協議会委員名簿
資料1、別紙1－1～2、参考資料、資料2、別紙2

5. 出席者（敬称略）

松田 美智子（龍谷大学）、国府 千香代（亀岡市薬剤師会）、井上 幸子（亀岡市社会福祉協議会）、中西 明美（亀岡市民生委員児童委員協議会）、藤本 泉泰（（公社）亀岡市シルバー人材センター）、細川 景子（社会福祉法人 利生会）、前渕 功（社会福祉法人 友愛会）、野田 典和（亀岡市自治会連合会）、谷奥 正憲（市民代表）、岩坂 静子（市民代表）、庄田 昭彦（京都府南丹広域振興局）
※傍聴者0名

6. 主な協議内容

（事務局） 【開会】
【開会挨拶】
（事務局）
・欠席者のお知らせ

協議事項（１）第１０期計画に向けての評価方法の見直しについて

（事務局資料説明） 【資料１、別紙１－１～２、参考資料】

【質疑応答等】

（委員）

- ・ロジックモデルということで因果関係がわかるというのは、その通りだと思う。評価基準２は、取り組みの成果がそのままこの初期アウトカムにどう関わってくるのか直接見えにくいと思う。評価基準が２つあることで、流れが難しいと思う。

（事務局）

- ・評価基準１の方だけで判断をすれば、簡単に判断できると思う。本来であれば初期アウトカムに対して、それに繋がるアウトプットの数値目標が設定されていることが理想にはなるが、数値目標によっては、初期アウトカムに繋がっているのかなといったものもあるため、繋がりが見えにくい部分について評価基準２を設け、案をお出しした。貴重な御意見ありがとうございます。

（委員）

- ・ニーズ調査の設問項目を用いて評価する考え方はいいと思う。アウトカムの文言も、国の認知症基本法を踏まえることもいいと思うが、抽象的と思う。相談員が何人いるのか等の数であれば単純評価ができるが、例えば相談員が倍に増えたからと言って、相談の質が上がったかは別のことなので、質問評価を別立てで考えて、今後も検討していく課題なのかなと思う。
- ・ロジックモデルを１つの先進的なモデルとして、発信していくことは亀岡市にとってもいいことであると思うが、１０期、１１期とだんだん厳しくなっていくことが予測される中で、効果がないから事業を廃止するというのは、理由にならないように審議会も含めて、しっかり検討していく必要があると感じる。

（委員）

- ・同じ意見として、働く人が少なくなっていく中で、アウトカムの未達成が出てくると予測されたときに、未達成だからこの事業を廃止するとなると、何を目指していたのかの繰り返しになると思う。

（委員）

- ・別紙１－１の６ページの住まいの整備のところで、アウトプットが２つ書かれているが、高齢者の要望はこの２つだけではないのではないかなと思う。権利擁護にしても、これだけなのかなと思う。

協議事項（２）高齢者等実態把握調査について

（事務局資料説明） 【資料２、別紙２】

【質疑応答等】

特になし

協議事項（３）その他

（事務局）

- ・ 次回令和７年度第１回いきいき長寿プラン推進協議会は令和７年１０月頃に予定している。

（会長）

- ・ 他には何か質問等はあるか。質問がないようなので、本日の議事はすべて終了となる。

【閉会】

（事務局）